

豊橋市石巻本町

馬越地区の歴史まちづくりに向けた提言書

令和8年4月24日

馬越地区活性化委員会

馬越地区活性化委員会は、「豊橋市文化財保存活用地域計画」に挙げられた文化財の保存・活用の措置を鑑み、豊橋・新城スマートICの開設による北部地域の活性化策として、下記および別添により石巻本町馬越地区において、豊橋市が主体となり史跡馬越長火塚古墳群を核にした歴史まちづくりを進めることを提言します。

記

○まちづくりの基本理念について、

「人が集い、歴史文化を未来につなぐまち・馬越」を提案します

○全体を総括する基本的な方向性として、次の3点を提言します。

- ・馬越長火塚古墳群を史跡公園化することで、その価値を磨き上げ、郷土愛と誇りを育む場所にする
- ・多様な人々の歴史文化交流拠点を設け、観光振興にも貢献する
- ・市民が日常的に歴史文化資源を楽しむ場所にする（知的好奇心、学校教育、健康志向）

○具体的な個別の提言として、おもなものを次に挙げます

- ・史跡指定地の公有化と便益施設を伴う史跡公園の整備
- ・馬越長火塚古墳における横穴式石室の適切な保全
- ・主要地方道豊橋下吉田線沿いに、ガイダンス施設や展示施設、収蔵施設のほか、市民や来訪者の交流の場となる歴史文化交流施設を設置
- ・史跡公園整備に合わせた公衆用道路（市道）の拡幅等整備
- ・馬越地区や石巻地域の歴史文化資源と連携した活用の推進
- ・市担当部局の組織・体制の整備

提言の詳細

1. めざすべき将来像

馬越地区やそこを含む石巻地域には、人々の多様な営みによって豊かな歴史文化や農環境、自然環境が伝えられてきました。これらは比類のない豊橋市を代表する地域資源と言えます。一方で、本地域は開発が制限された市街化調整区域であり、より多くの人々が集住してまちづくりを進める地域ではありません。さらに、近年は農業の担い手不足が深刻化しており、地域の社会環境は年々悪化しつつあります。

こうした状況下において、豊かな地域資源を積極的に活用することで、地域への関心の高まりと愛着の醸成につなげ、地域資源を未来へと継承する活力を生み出します。また交流・関係人口を増やすことが、この地域のまちづくりに大きな効果を発揮するものと期待されます。そのためには、地域課題の解決を兼ねた具体的な行動に移ることが大切です。

そこでここでは、地域に関わる人々がこれまで培われてきた地域資源を理解し、その保存と活用を通じて、地域資源を未来に向けて発展的に継承することを提言します。

そのために、次の基本理念を提案します。

人が集い、歴史文化を未来につなぐまち・馬越



石巻古墳ウォーク！（令和6年）

2. 馬越地区の歴史まちづくりの基本的な考え方

『馬越長火塚古墳群保存活用計画』では、古墳群の活用の方向性として、

- ・「穂の国」の歴史発信について
- ・本質的価値の共有について
- ・人々の営みや景観との共存について

の3つを挙げています。

それを踏まえたうえで、史跡馬越長火塚古墳群が豊橋市を代表する重要な歴史文化資源であることを認識し、その保存と活用を目的とする史跡公園整備を行うとともに、周辺の地域資源についてもさまざまな手法により活用を行い、本地区の特色を最大限に生かした歴史まちづくりを進めることを提言します。

全体を総括する基本的な方向性は、次の3点です。

- 史跡公園化で価値を磨き上げ、**郷土愛と誇り**を育む場所に
- 多様な人々の歴史文化交流拠点として、**観光振興**に貢献
- 市民が**日常的**に歴史文化資源を**楽しむ**場所に（知的好奇心、学校教育、健康志向）

また、これら歴史文化資源を取り囲む農業資源や自然資源について、歴史まちづくりに見合う改善や維持についても考えていく必要があります。

① 史跡馬越長火塚古墳群

史跡馬越長火塚古墳群は、国内では数少ない累代の国造の奥津城として知られ、古墳群の被葬者は古代の東三河の歴史と文化の発展に寄与した先人たちと言えます。このことは、穂国の成り立ちを含め、現在までの地域の形成や現代における文化の創造にとって意義深いものであり、古墳群を荒廃から守り、未来に向け伝えていくことはわれわれ現代人に課せられた課題です。そこで、古墳群の所在する史跡指定地を保全するとともに、史跡公園として整備を行い、あらゆる人々が古墳の存在を認識して容易にその価値にふれ、活用できる状態にすることを望みます。

② 史跡馬越長火塚古墳群以外の歴史文化資源

馬越地区には、さまざまな歴史文化資源が存在します。しかし、現地は整備されておらず、それを説明・紹介する看板やそこに至る通路の整備もほとんど行われていません。また、これら歴史文化資源の調査が十分に進められているとは言い難い状況です。そこで、それぞれの歴史文化資源について見学が可能なよう環境整備を進めるとともに、調査を実施してその本質的な価値を明らかにし、馬越地区の歴史まちづくりに資するものとすることを望みます。

また、馬越地区が所在する石巻地域は、馬越地区と深くかかわる歴史文化資源が所在します。そこで馬越地区を中核にし、それを包括する石巻地域の歴史文化資源の活用にも取

り組むことを望みます。

③ 農業資源

馬越地区は、豊かな農環境の中に数々の歴史文化資源が点在しており、両者は密接不可分な関係にあります。農環境とかけ離れた史跡公園整備は避けるべきです。

馬越地区では、柿畑を中心とする豊かな農業資源が広がっています。一方で、近年の耕作放棄地の存在は歴史まちづくりによる景観に影響を与えるものとなっています。そこで、現状の農業資源の価値を理解しながら、歴史まちづくりになじむかたちでよりよい農環境を実現する必要があります。

④ 自然資源

馬越地区やその隣接地区には山地が存在し、古墳など数々の歴史文化資源が所在します。自然資源に親しみ、かつ歴史文化資源にも容易に接近するための通路の設定や整備を進めるなど、歴史と自然の両者に親しめる場所にしていくことを望みます。

(2) 歴史まちづくりの具体的な取り組み

① 史跡馬越長火塚古墳群（史跡公園）

以上を踏まえ、具体的な取り組みを以下のとおり希望します。

【史跡指定地】

- ・ 指定地の範囲内に含まれた未指定箇所を追加指定する
- ・ 史跡指定地とそれを囲む範囲の公有化を行う
- ・ 馬越長火塚古墳は前方部が、大塚南古墳と口明塚南古墳は墳丘全体が畑地に改変されている。そこで、保護盛土を行い本来の形状に近い形に復元する
- ・ 古墳やその遺構を説明するための看板など、各種の標示施設の設置
- ・ 馬越長火塚古墳の横穴式石室は公開を前提とし、一部劣化が認められるため状態調査を行った後、適切な修復など保全策を実施
- ・ 樹木は、墳丘や石室に影響を与えるものは伐採するなど、適切に管理
- ・ AR（拡張現実）やVR（仮想現実）を活用して葺石で覆われた墳丘の姿、または埋没保存されている横穴式石室を観ることができるようにするほか、QRコード※等を応用した現地解説手法を取り入れるなど、デジタル技術を活用
- ・ 見学の便宜として、隣接地にトイレ・少数台の駐車が可能な駐車場、広場と休憩用東屋など各種便益施設を設置

※QRコードとは、デンソーウェーブが開発した二次元コードです

【歴史文化交流施設】

- ・利用者の利便性に配慮した、歴史文化交流を目的とする施設（以下、歴史文化交流施設）の主要地方道豊橋下吉田線（県道）沿いへの設置
- ・歴史文化交流施設には常駐の人員を配置し、古墳群と周辺施設の管理や集客のための各種企画、歴史文化資源の展示、馬越地区を中心に石巻地域の歴史文化資源の紹介・案内等を実施
- ・歴史文化交流施設は、ガイダンス施設や展示施設、収蔵施設のほか、交流の場として適当なスペースなどで構成
- ・ガイダンス施設は、馬越長火塚古墳群の本質的な価値を紹介する場とする
- ・展示施設は、石巻地域の歴史文化資源を紹介する展示ほかを行う場とする
- ・収蔵施設は、保管が必要な石巻地域の歴史文化資源を収蔵する場とする
- ・来訪者の休憩と日常的な利用を促すための飲食スペース（カフェ）を設置
- ・このほか、歴史文化交流を可能とするための広場などイベント空間や、市民が普段から歴史文化に親しむ場とするための子供向け遊具、来訪者に必要十分な駐車スペース、トイレなどの便益施設を設置

【関連施設】

- ・史跡公園の整備に合わせて、現存する公衆用道路（市道）や井溝（水路）、農業用排水路、豊川用水支線の拡幅・新設・改修・切り回し等を実施
- ・墳丘の形や古墳群の立地を俯瞰できるビューポイントを設定
- ・国道等主要道に史跡公園や主要な歴史文化資源を案内する矢印表示板を設置
- ・外部からの多様な人々を受け入れ、交流人口を効果的に増やす方策を検討

② 史跡馬越長火塚古墳群以外の歴史文化資源

【馬越地区とその周辺】

- ・歴史文化資源の所在地に、説明看板など各種の標示施設を設置。また QR コード等を応用した現地解説手法を取り入れるなど、デジタル技術の活用を検討
- ・歴史文化資源の調査を実施し、その本質的な価値を把握し、文化財指定を行うなどによるランクアップ
- ・古墳や周辺の歴史文化資源を周遊する導線計画を作り、遊歩道を設定・整備し案内のためのサインを設置することで、それぞれのアクセスを容易化
- ・古墳など主要な歴史文化資源は除草や伐木などの環境整備による「見える化」を進め、見学を容易化

【石巻地域】

- ・ 主要な歴史文化資源の所在地に、説明看板など各種の標示施設を設置
- ・ QRコード等を応用した現地解説手法を取り入れるなど、デジタル技術の活用を検討
- ・ 主要な歴史文化資源の調査を実施して、その本質的な価値を把握し、文化財指定を行うなどランクアップ
- ・ 主要な歴史文化資源と馬越長火塚古墳群とを結ぶウォーキングコースを設定
- ・ 主要な歴史文化資源の各種情報を歴史文化交流施設で発信し、さまざまな人々の探訪や利活用を促進
- ・ 古墳など主要な歴史文化資源は、除草や伐木などの環境整備による「見える化」を進め、見学を容易化
- ・ レンタサイクルなど、自転車を利用した周遊レクリエーションを促す

③ 農業資源

- ・ 住民が主体になった、馬越長火塚古墳群をとりまく農地利用の検討

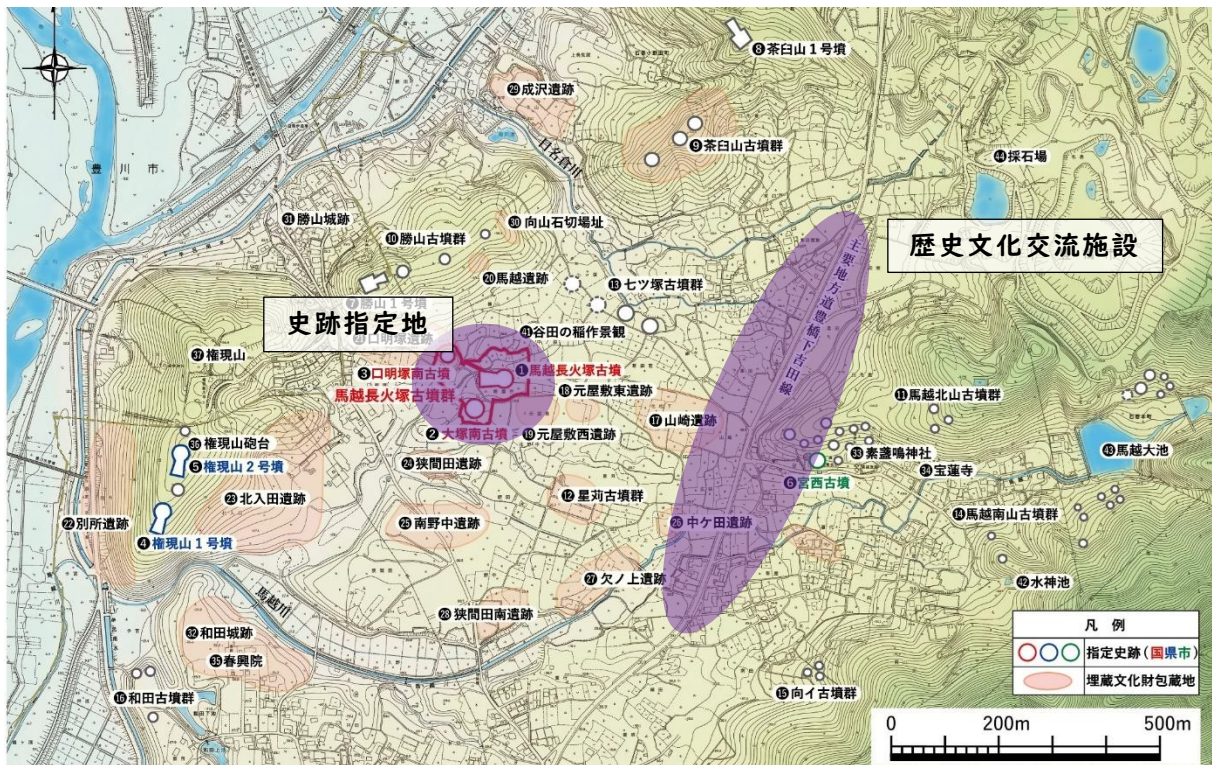
④ 自然資源

- ・ 馬越地区や周辺には、アクセスが容易な場所に山地が所在している。この地の利を生かした自然資源の価値をアピール
- ・ 歴史文化資源と史跡公園とを結ぶかたちで設置される遊歩道を、自然観察道を兼ねるものとして整備
- ・ 山地に近い場所、もしくは山地に自然資源の魅力を満喫できる滞在型アウトドア施設を設置
- ・ 石巻山や吉祥山、郷道の滝、カタクリ群生地、馬越大池など、石巻地域や馬越地区の主要な自然資源の所在地に、説明看板など各種の標示施設を設置
- ・ QRコード等を応用した現地解説手法を取り入れるなど、デジタル技術の活用を検討

(3) 歴史まちづくりの実現に向けた推進体制

- ・ ボランティアガイド、ファンクラブの支援
ボランティアガイドの養成とファンクラブなど愛する会を設置
- ・ 地元住民、関係機関、組織との連携
地元自治会や教育機関、他の史跡公園などと連携した整備と利活用
- ・ 史跡を管理運営するための組織の充実
市担当部局の組織・体制の充実

馬越地区の歴史まちづくり図



【概要】

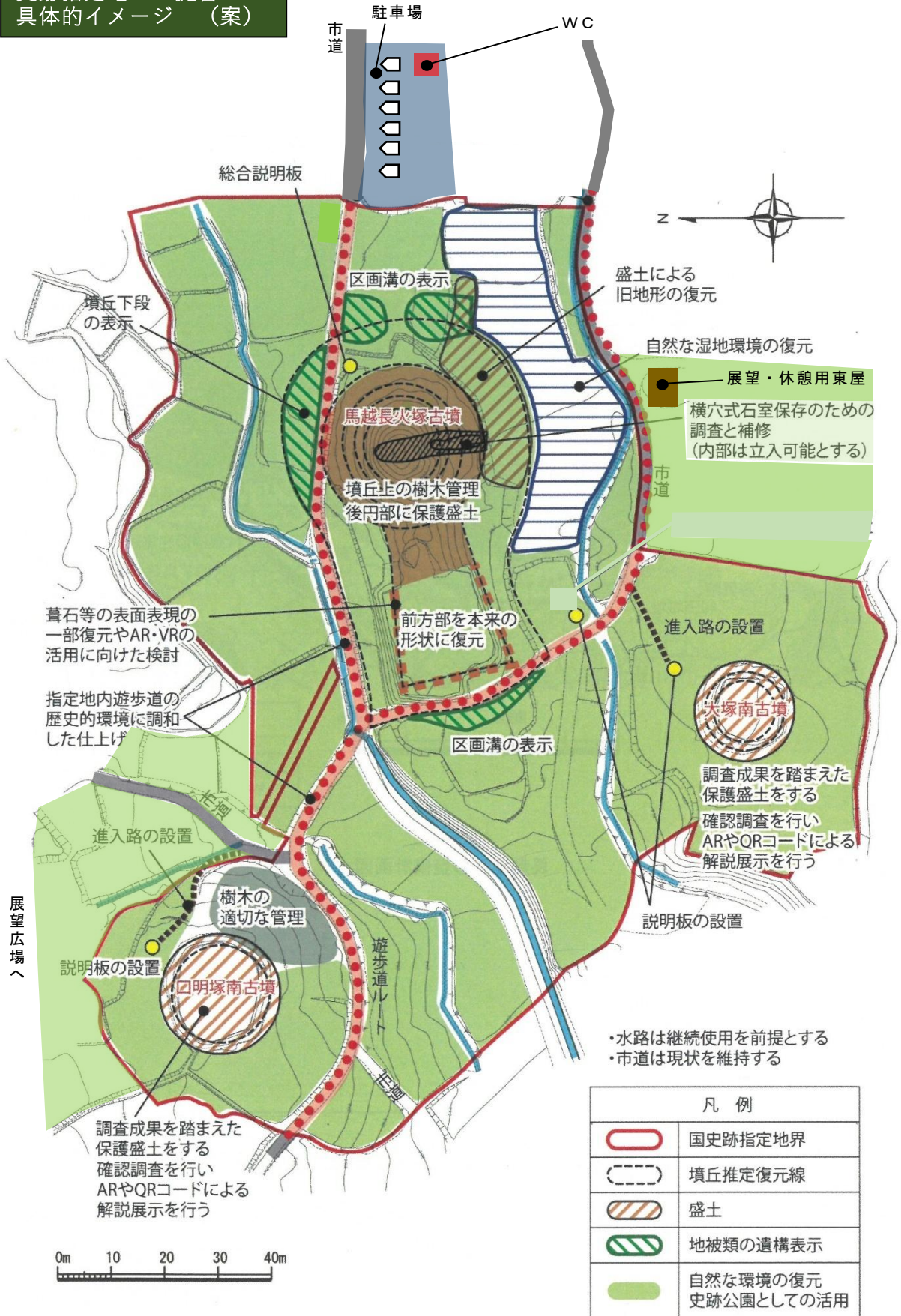
史跡指定地

- ・保護盛土を行い、古墳を本来の形状に近い形に復元する。
- ・古墳やその遺構を説明するための看板など、各種の標示施設を設置する。
- ・馬越長火塚古墳の横穴式石室は公開を前提とし、適切な修復を実施する。
- ・樹木は、墳丘や石室に影響を与えるものは伐採するなど、適切に管理する。
- ・ARやVR、QRコード等を応用した現地解説など、デジタル技術の活用。
- ・隣接地にトイレや休憩用の東屋、少数台の駐車が可能な駐車場などの便益施設を設置する。

歴史文化交流施設

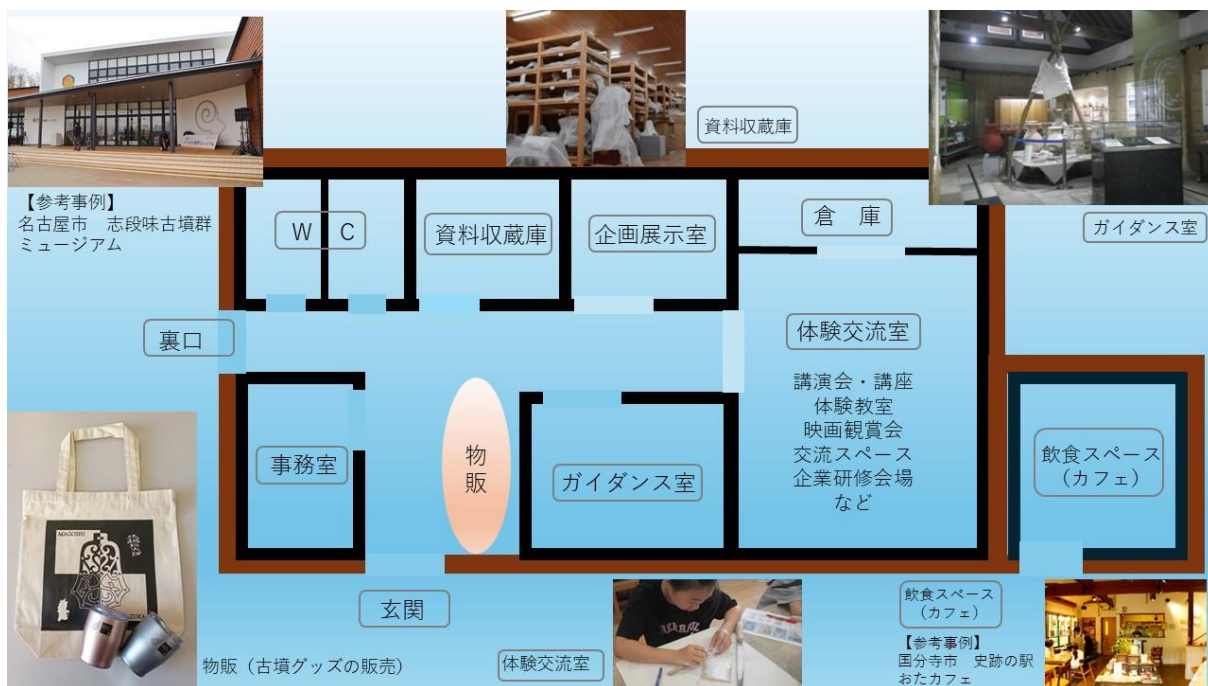
- ・主要地方道豊橋下吉田線（県道）沿いに設置する。
- ・常駐の人員を配置し、古墳群と周辺施設の管理や集客のための各種企画、歴史文化資源の展示、歴史文化資源の紹介・案内等を行う。
- ・ガイダンス施設や展示施設、収蔵施設などで構成する。
- ・ガイダンス施設は、馬越長火塚古墳群の本質的な価値を紹介する場とする。
- ・収蔵施設は、保管が必要な石巻地域の歴史文化資源を収蔵する場とする。
- ・来訪者の休憩と日常的な利用を促す飲食スペース（カフェ）を設置する。

史跡指定地への提言の
具体的イメージ (案)



『史跡馬越長火塚古墳群保存活用計画書』の掲載図を引用し加筆

歴史文化交流施設への提言の
具体的イメージ（案）



【付帯施設】



復元した竪穴建物



体験ひろば



土器野焼き場



駐車場を兼用したRVパーク

提言の根拠となる資料

目 次

1. はじめに	
(1) 提言書作成の背景と目的	13
(2) 対象地域	13
(3) 参考にした計画など	13
2. 石巻地域の概要	
(1) 地理	15
(2) 産業	15
(3) おもな地域資源	16
3. 馬越地区の概要	
(1) 地理	23
(2) 人口	23
(3) 交通	23
(4) 産業	24
(5) 地域資源	24
4. 地域資源に関する地域住民等の意向	
(1) 地域住民の意向（地元検討組織による意見交換）	30
(2) 市民の意向（市民対象ワークショップ）	30
5. 馬越地区の現状と課題の整理	31
6. 馬越地区活性化委員会	32

1. はじめに

(1) 提言書作成の背景と目的

①背景

馬越地区活性化委員会は、豊橋市が行う豊橋新城スマートインターチェンジ（以下「スマートIC」という）の設置に先駆けて設立しました。スマートICは開通による産業・経済面での効果が大きく、さらには北部地域の便利で快適なまちづくりに貢献するものと期待されています。

一方で、北部地域を含む石巻地域は、本市のみならず愛知県内でも指折りの歴史文化資源に恵まれた地域です。縄文・弥生時代の遺跡や県内最多の数を誇る古墳、戦国時代の城跡や近世の街道など、歴史文化資源の種類は多様であり、その中心となるのが国指定史跡・馬越長火塚古墳群です。しかし現在、その多くが周知されておらず、有効に活用されているとは言い難い状況にあります。それは逆に言えば、これらが内包するポテンシャルが地域資源として生かされていないことでもあります。

②目的

対象地域を中心に、歴史文化資源を生かした石巻地域の活性化に資する取り組みを進めるため、地域の特性や住民の意向として、目指すべき歴史のまちの姿を提言することとしました。

(2) 対象地域

本提言書の対象地域は、馬越長火塚古墳群が所在する石巻本町の馬越地区とします。また、相互に関連する地域資源のより有効な利活用を図るため、石巻地域の歴史文化資源を包括して本構想の中で取り上げることとします。

(3) 参考にした計画など

本提言書を作成するにあたり、下記の計画などを参考にしました。

- ・第6次豊橋市総合計画
- ・第2次豊橋市教育振興基本計画

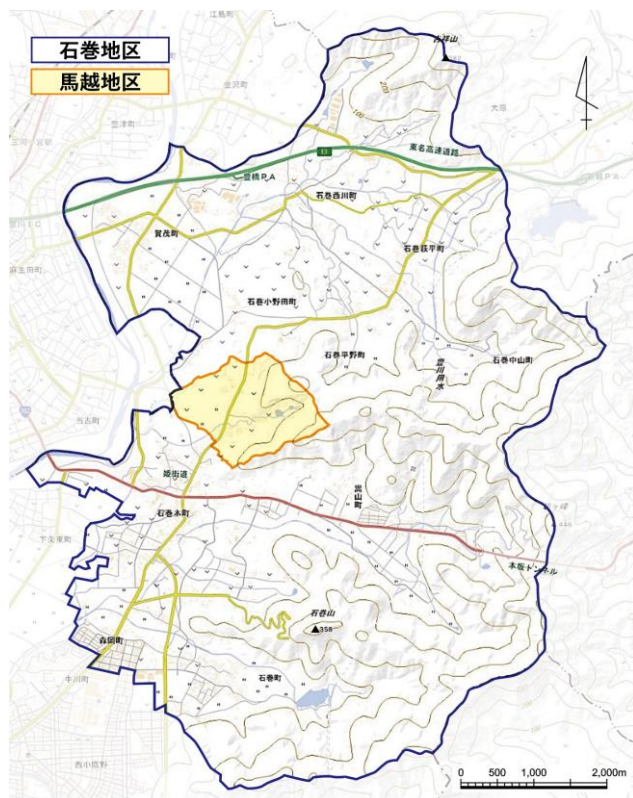


図 1-1 提言の対象範囲

- ・都市計画マスタープラン
- ・豊橋新城スマート I C（仮称）周辺土地利用構想
- ・豊橋新城スマート I C（仮称）周辺土地利用計画
- ・豊橋市景観計画
- ・豊橋市農業振興地域整備計画

- ・豊橋市文化財保存活用地域計画
- ・史跡馬越長火塚古墳群保存活用計画 など

○上記の中で、馬越地区に深くかかわる内容（抜粋）

【市街化調整区域の位置づけ（「都市計画マスタープラン 2021－2030」）】

市街化を抑制し、農地や自然を守る区域であるため、無秩序な開発を抑制するとともに、農業地域や自然地域との調和を保ち、集落地域の生活圏を維持していきます。また産業や広域交流の活性化のため、地域特性に応じた産業用地の供給や地域資源の活用にあ資する土地利用を進めます。

【馬越地区のゾーン設定（「豊橋新城スマート I C（仮称）周辺土地利用構想」）】

歴史文化ゾーン

地域資源である史跡馬越長火塚古墳群を核として、歴史・文化の学びの場や、農業・自然に触れられる交流の場、憩いの場を提供することで地域活性化を図るゾーン。

導入機能：農業機能、観光機能、生活機能、防災機能、環境機能

2. 石巻地域の概要

(1) 地理

石巻地域は豊橋市北部に位置し、石巻中学校区としてまとまっている地区です。地区内は高低差のある地形となっており、市境や県境となる地区の北部や東部に山地があり、他は河岸段丘や扇状地からなる平坦地が広がっています。平坦地は全体に北上するほど標高が高くなり、地区の南端である石巻町は標高 30m ほど、北端の石巻西川町は標高 60m ほどです。

山地は、赤石山系である弓張山地の南端近くに相当し、その急峻な地形から山岳信仰の対象地となりました。特異な形状の石巻山（標高 358m）や独立山塊の吉祥山（標高 382m）も信仰の山です。また河川は、地区の西側に一級河川・豊川が貫流するほか、地区の南側には神田川や三輪川、中ほどに馬越川、北側に間川が流れ、その周辺は開析谷が発達して一部は谷底に沖積地を形成しています。山地に囲まれた閉塞的な地形には、それぞれ独立した集落が形成されています。



図 2-1 石巻地域の地形図

(2) 産業

主要な産業は農業です。とくに地域の特産品である次郎柿は日本一の産地を誇り、その他梨、ぶどう、桃、いちじくなども栽培されています。いずれも県内で高い生産をあげる産地となっています。次郎柿の生産は、大正元年（1912）に静岡県周智郡森町から原木を導入したことから始まり、かつて盛んであった養蚕のための桑畑から置き換わる形で石巻地域に広く展開しました。現在、起伏のある地形を生かしながら果樹園による緑豊かな風景が広がり、石巻地域の代表的な景観を構成しています。

一方で、近年は農業従事者が減少しており、

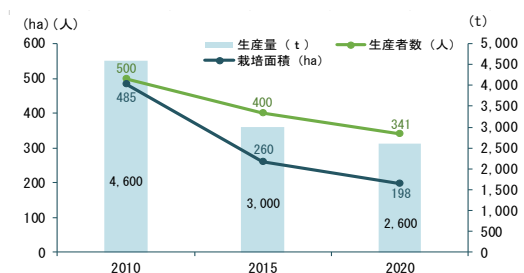


図 2-2 次郎柿の生産量・生産者数・栽培面積の推移

出典：豊橋市の産業（H22・H27・R2）

次郎柿生産の場合、2010年から2020年の10年間で生産者数が約3割、栽培面積が約6割減少しているとともに、生産量も約4割減少しています。

(3) おもな地域資源

① 歴史文化資源

No.	名称 関連する指定文化財	内容
①	石巻神社（石巻町） 市：石巻神社の大般若経	平安時代に編纂された「延喜式神明帳」に掲載されている、旧八名郡では唯一の式内社である。祭神として大己貴命（おおなむちのみこと）を祀る。石巻山北麓の神郷に本社（下宮）、石巻山中腹に山上社が鎮座する。建久年中（1190～99）に源頼朝の社参があり、神領100貫を寄進したという。
②	石巻神社の祭礼（石巻町）	旧正月（2月）14・15日に管粥祭が山上社拝殿で行われるほか、4月の第1日曜日には下宮春季大祭が開催される。下宮春季大祭は「鬼祭り」とも呼ばれ、横縞模様の衣装を着た赤鬼と黒鬼、及びその小鬼が拝殿の前縁で所作を披露した後、境内を走り回りたんきり飴と白い粉（小麦粉）を混ぜたものを参詣客の頭に浴びせる。この粉を浴びてたんきり飴を食べれば夏病みしないと伝えられ、当日は参詣客で賑わう。
③	山の背くらべ（石巻町）	石巻山と本宮山が高さを競う背比べの伝説。両山に樋をかけ水を流して測り、背くらべに負けた石巻山は流れ落ちた水の勢いで山頂の巨岩が露わになったという。石巻山の背を高くするため、小石を1つ持って登るとご利益があるなどと言われている。
④	だいだらぼっちの足跡（石巻町）	石巻山の山頂に向かう途中に「だいだらぼっちの足跡」と呼ばれる中心がへこんだ岩がある。かつて、巨人のだいだらぼっちが石巻山と本宮山に足をかけ、小便をしたときの痕跡だとされている。なお、小便の流れはやがて豊川になったと伝えられている。
⑤	ほんざかどおり 本坂通（嵩山町ほか） 国：歴史の道百選 市：嵩山一里塚（西塚）	江戸時代の東海道の付属街道で、姫街道の別称を持つ。浜名湖の北岸を通りながら豊川市の御油宿と静岡県磐田市の見付宿とを結ぶ街道で、石巻地域には嵩山宿や一里塚、常夜灯などの遺構が現存する。また古墳や遺跡の存在から、古代までさかのぼる交通ルートと考えられている。平成8年に、本坂峠から豊川市の当古までが文化庁の歴史の道百選に選定された。
⑥	しょうじゅうじ 正宗寺（嵩山町） 国：旧方丈障壁画 長澤蘆雪筆 附紙本墨画羅漢図 県：絹本着色釈迦三尊画像 県：紙本着色花鳥山水図 伝狩野元信筆 県：紙本淡彩四皓の図 伝狩野正信筆 市：絹本着色涅槃図 伝兆殿司筆 市：紙本墨画龍虎図 円山応挙筆 市：紙本墨画達磨図 白隠筆 市：麻地著色靈山会図	嵩山町にあり、正式には嵩山正宗寺といい、現在は臨済宗妙心寺末である。永仁年中（1293～99）を起源にするとされ、裏山にはそれより古い10世紀に遡る山寺の遺構（正宗寺旧境内）が存在する。戦国時代に火災などにより衰えたが、大檀那の西郷氏が復興した。18世紀の万年和尚の代に伽藍を建立し、絵師の長澤芦雪に依頼して優れた障壁画を描かせるなど、絵画を中心とする文化財を多数所有している。

⑦	わちが やじょうし 月ヶ谷城址（嵩山町）	正宗寺の南西側山頂に存在する、西郷氏の山城跡である。本坂通を見下ろす立地は、遠江から侵入する今川氏に備えたものと考えられる。曲輪や土塁、堀などがよく残り、小規模ながら技巧に優れた本市を代表する山城である。
⑧	す せじやく 嵩山宿（嵩山町）	嵩山は江戸時代を通じて吉田藩領の村で、本坂通を通行する大名行列などの人馬の継立を行う機能も持っていた。天保14年（1843）の記録には、宿内町並東西5町50間（約640m）、人数580人、家数130軒、本陣1軒、脇本陣なし、旅籠屋なし、問屋場なしとなっているが、実際には本陣は名主宅を兼用しており、重要な通行があった場合にのみ農家を問屋場として使用した。敷地の石垣や常夜灯などに往時の面影を留めている。
⑨	す せじやあな 嵩山蛇穴（嵩山町） 国：嵩山蛇穴	標高140mの山腹に位置する石灰岩洞窟を利用して営まれた岩陰住居遺跡である。昭和16年（1940）から22年（1947）まで南山大学などにより4回の発掘調査が行われた。入口付近の堆積土から縄文時代草創期から早期（1万年前）の土器や石器・石鏃・骨角器・獣骨・貝などの遺物が出土した。名前の由来は、かつて大蛇が住んでいたという言い伝えからで、このほか洞窟が長野県の善光寺までつながっている、武田勝頼の埋蔵金があり今も武者が守っている、等の伝説がある。
⑩	嵩山大念仏（嵩山町）	嵩山町のうち旧嵩山村に伝わった念仏踊。旧盆の夜に行う習わしで、かつては集落以内で初盆を迎える家や正宗寺本堂前で行ったという。記録によれば江戸時代中期までは確実に遡る。一時期途絶えたが、現在は保存会が組織されて復活し、嵩山小学校を会場に実施されている。
⑪	すぎもと 楢本八幡社（石巻本町） 市：楢本八幡社の鰐口 市：楢本八幡社の綱火	創建は明らかではないが、文明3年（1471）に牧野駿河守が社殿を改築した記録が残る。近在する和田城主の渡辺家からの崇敬が厚かった。綱火は宵祭に手筒花火とともに奉納される特殊な花火で、綱（現在はワイヤー）を伝って花火が疾駆する。
⑫	和田城址（石巻本町）	第2章参照。
⑬	まごしなが ひづか こふん 馬越長火塚古墳（石巻本町） 国：馬越長火塚古墳群	第2章参照。
⑭	馬越長火塚古墳出土品（石巻本町） 国：愛知県馬越長火塚古墳出土品	第2章参照。
⑮	大塚南古墳（石巻本町） 国：馬越長火塚古墳群	第2章参照。
⑯	くちあけづかみなみ 口明塚南古墳（石巻本町） 国：馬越長火塚古墳群	第2章参照。
⑰	ごんげんやま づうふん 権現山1号墳（石巻本町） 県：権現山古墳	第2章参照。
⑱	権現山2号墳（石巻本町） 県：権現山古墳	第2章参照。
⑲	みやにし 宮西古墳（石巻本町） 市：宮西古墳	第2章参照。
⑳	かつやま 勝山1号墳（石巻本町）	第2章参照。
㉑	ごほんまつ 五本松城址（石巻中山町）	もとは嵩山に居住した西郷氏が、今川氏に攻められて移した本城で、石巻中山町の最奥部の山麓に所在する。現存する遺構は少ないが、周囲を取り囲む山には数々の砦が設けられ、五本松城を中心とする城砦群を形成している。永禄5年（1562）まで西郷氏の城とし

		て存在した。
②②	たいようじし 太陽寺址（石巻中山町）	山腹に位置する山寺跡で、採集された遺物から平安時代中期（10世紀）までは確実に遡る。大型の平場が3段並び、細い参道でつながっているほか、堂宇の礎石が認められる。医（くすし）神社には寺の縁起が伝えられている。
②③	きつねづか 狐塚古墳（石巻平野町）	全長約33mの前方後円墳で、後円部と前方部にそれぞれ石室が存在する。このうち後円部の横穴式石室は、古くに地元青年団が掘削した際に大刀、耳環、勾玉、土器類が出土したとされる。6世紀前葉に豊橋市北部付近を支配した首長の墓と考えられる。
②④	むかいやま 向山1号墳（石巻西川町）	標高65mの尾根上に築かれた全長43mの前方後円墳である。発掘調査は行われていないが、その形から5世紀初めの首長の墓と推定される。南側の尾根には前方後方墳の北長尾8号墳がある。
②⑤	くたゆうづか 久太夫塚古墳（石巻西川町）	直径12mほどの円墳で、大型の横穴式石室が南に向け開口している。横穴式石室は巨石が使われており、石室の特徴から7世紀前葉の有力者の墓と考えられる。
②⑥	だんづか 段塚古墳（石巻西川町）	直径21mの円墳と考えられ、個人住宅の敷地内に存在する。横穴式石室が南に向け開口している。石室は昭和25年（1950）に石巻中学校の教諭らが発掘調査し、その後出土品は散逸したが、一部は豊橋市に買い取られた。2振りの金銅装大刀や銅鏡など優れた出土品がある。7世紀前葉の有力者の墓である。
②⑦	ひめづか 姫塚古墳（石巻西川町）	直径24mの円墳で、昭和28年（1953）に明治大学や地元研究者らが発掘調査を行い、銅鏡や多数の鉄製武器、耳環、玉類、石製紡錘車など豊富な副葬品が出土した。6世紀末から7世紀前葉の有力者の墓である。なお、出土品は明治大学が保管している。
②⑧	にしがわ 西川城址（石巻西川町）	西郷氏の城のひとつで、台地の先端に土塁や堀が良好に残る。天文年間（1532～55）から天正18年（1590）まで使用されたとされる。西側の急斜面はカタクリの群生地として知られている。
②⑨	きつしやう 吉祥古墳群（石巻西川町）	吉祥山の南側中腹から山麓にかけて存在する70基からなる古墳群で、市内最大の群集墳。古墳群内には積石塚古墳が含まれ、群の形成は5世紀に遡る可能性がある。いくつかは発掘調査が行われたままのかたちで現地に残されている。
③⑩	賀茂神社（賀茂町） 県：賀茂神社本殿 県：猿田彦古面 市：賀茂神社の仮面 市：神山古墳	山城国の賀茂別雷社を勧請したといわれ、今川氏親や徳川家康から領地を与えられた。本殿は一間社流造で、寛永元年（1624）の棟札が残されているが、一部に桃山様式を留めており古材が再利用された可能性がある。数多くの神宝が伝えられるほか、かつて隣接してあった弁天塚古墳の出土品も所蔵する。境内の参道東側には、直径28mの円墳である神山古墳がある。
③⑪	かも 賀茂神社大祭（賀茂町）	毎年4月15日に近い日曜日に行われる春の例大祭は葵祭と呼ばれ、境内では大幡神事や爪切神事、競馬行事や藤四郎鬼、獅子舞などさまざまな行事が行われる。
③⑫	かつての村名（全域）	近世の石巻地域には数々の村が存在したが、表2-1の変遷を経て、現在の町名となった。ただし、かつての村としてのまともは健在で、自治会の地元組織として、多くの地名が今も使用されている。かつての村名は、行政的な名称では分からない、石巻地域の構成と成り立ちをたどる上で、貴重である。



①石巻神社



②石巻神社の祭礼



④だいらぼっちの足跡



⑤本坂通



⑥正宗寺



⑦月ヶ谷城址



⑧嵩山宿



⑨嵩山蛇穴



⑩嵩山大念仏



⑪梶本八幡社



⑫和田城址



⑬五本松城址



⑭太陽寺址



⑮狐塚古墳



⑯向山1号墳



⑰久太夫塚古墳



⑱段塚古墳



⑲姫塚古墳



⑳西川城址



㉑賀茂神社



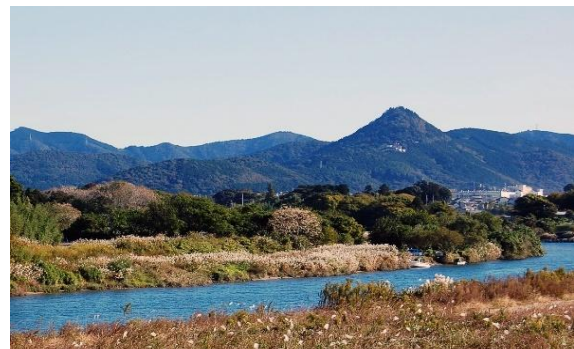
㉒賀茂神社大祭

②農業・自然資源

N0.	名称 関連する指定文化財	内容
③③	石巻山（石巻町） 国：石巻山石灰岩地植物群落	標高 358m の山で、豊橋市街地から見た姿は整備な三角形を呈し、東三河平野部のランドマークである。山麓に石巻神社、中腹には石巻神社山上社が鎮座する。山頂は石灰岩の巨岩からなり、付近の石巻山石灰岩地植物群落は、国の天然記念物に指定されている。また、付近は貴重な陸貝の生息地としても知られている。石巻山を中心とした良好な自然景観と石巻神社などの歴史景観を保全することを目的に、石巻山風致地区が指定されている。山頂からの眺望に優れ、軽登山の山として市民に広く親しまれている。
③④	吉祥山（石巻西川町）	豊橋市と新城市の市境にある、標高 382m の山である。東西にやや長い円形の独立山塊のため、東三河平野部から優れた山容を望むことができる。シイの巨木林など自然植生がよく残されている。新城市側の中腹にあった今水寺の奥の院としてこの名があり、吉祥古墳群や旗頭山尾根古墳群など積石塚を含む多くの群集墳が存在するほか、戦時中には山麓に陸軍の射撃場が設置されていた。
③⑤	とよがわ 豊川（石巻本町、賀茂町）	北設楽郡設楽町などからを源流とし、豊橋市の北部から西部を曲流しながら三河湾に注ぐ一級河川である。石巻地域では流路幅は 50～100m 程度と水量は豊富で、河床に円礫が広く分布している。連なる山並みと湾曲する豊川の流れは、市民に親しまれた故郷を代表する景観である。
③⑥	こうどう 郷道の滝（石巻西川町）	石巻西川町を流れる郷道川にある滝で、高さは約 5m、平水時の落水の幅は 50cm ほどである。この滝を中心に、豊橋市が管理する緑地広場「郷道川の滝」が整備されている。
③⑦	カタクリ群生地（石巻西川町）	カタクリはユリ科の多年生草本で、初春に開花する。花はピンク色で直径は 5～6cm で、下向きに咲く。西川城址（石巻西川町）の西側急斜面には半栽培ながら群生地があり、春には多くの見学者が訪れる。
③⑧	賀茂しょうぶ園（賀茂町）	豊橋市が昭和 43 年（1968）から市有地の整備を始め、同 45 年に開園した。敷地面積は 12,900㎡、うち植栽面積は 3,700㎡である。江戸系・肥後系・伊勢系などの 300 種 37,000 株の花菖蒲が植えられており、毎年初夏には花しょうぶまつりが行われて多くの観光客でにぎわう。
③⑨	次郎柿（全域）	原木は静岡県周智郡森町で、大正元年（1912）に苗が旧石巻村に導入された。次郎柿は四角い形で肉質が密で歯応えがよく、甘味が強い特徴があり、ビタミン C、カロチン、カリウムが含まれている。主に関東地方へ出荷されている。収穫時期は 10 月から 11 月である。
④①	次郎柿を中心とする農景観（全域）	石巻地域の起伏にとんだ地形を生かしながら、次郎柿の果樹園が広大に分布している。春の新緑の時期と秋の柿が実をつける時期は優れた農景観が展開する。



③③ 石巻山



③⑤ 豊川



⑩ 郷道の滝



⑪ カタクリ群生地



⑫ 次郎柿を中心とする農景観

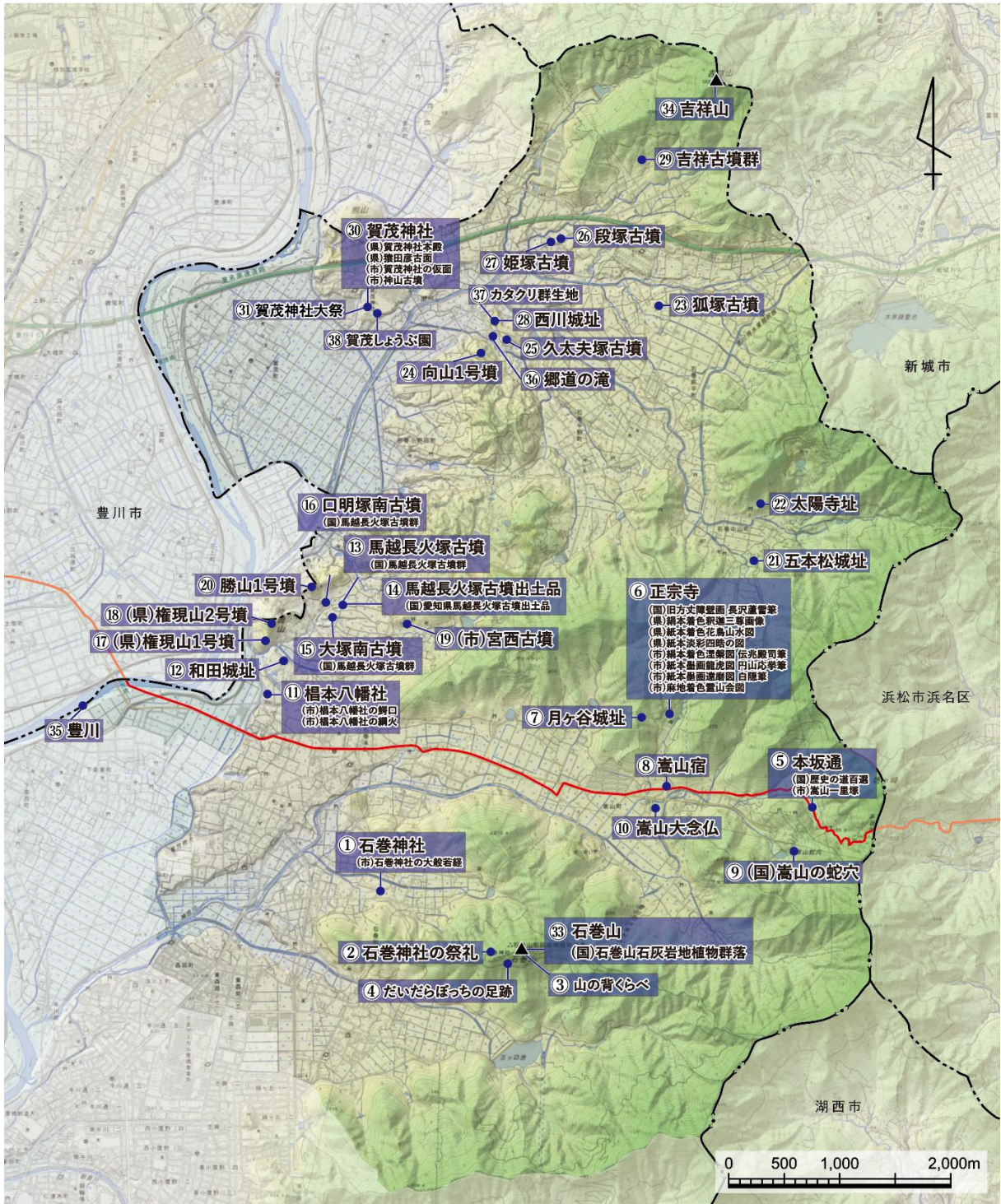


図 2-3 石巻地域の地域資源位置図



図 2-4 石巻地域の村の位置 (『石巻村全図』[作成年不明]を改変)

表 2-1 石巻地域の地区名の変遷 ※『愛知県の地名』(1981、平凡社)より、太字は馬越地区の変遷

三河国村々高附 (1624-44)	天保郷帳 (1834)	郡区町村編制 (1878)	市町村制施行 (1889)		現在 (2025)	
神郷村	神郷村	三輪村	美米村	石巻村 (1906)	石巻町	
金田村	金田村	玉川村	玉川村		石巻本町	
神ヶ谷村	神ヶ谷村				高山村	高山町
高井村	高井村				小野田村	石巻 小野田町
長楽村	長楽村	馬越村	西郷村		石巻平野町	
和田村	和田村	平野村			石巻中山町	
嵩山村	嵩山村	中山村			石巻萩平町	
長彦村	長彦村	萩平村			石巻西川町	
月ヶ谷村	月ヶ谷村	高山村	賀茂村		双和村 (1951)	
入文村	入文村	加茂村			賀茂町	
成沢村	成沢村	加茂村				
馬越村	馬越村	加茂村				
平野村	平野村	加茂村				
西郷村	中山村	加茂村				
萩平村	萩平村	加茂村				
西川村	西河村	加茂村				
加茂村	加茂村	加茂村				

3. 馬越地区の概要

(1) 地理

馬越地区は、北側と東側の弓張山地と支尾根の茶白山、西側の独立山塊である権現山や勝山によって囲まれており、南側は豊川によって形成された低位段丘面に接しています。つまり、本地区は西・北・東側の三方向を山地に囲まれ、南側のみ平野部に連続した地形となっています。また内部は、豊川支流の馬越川によって形成された扇状地となっており、平坦な地形が形成されていますが、全体的には東側から西側に向け緩やかな傾斜となっています。

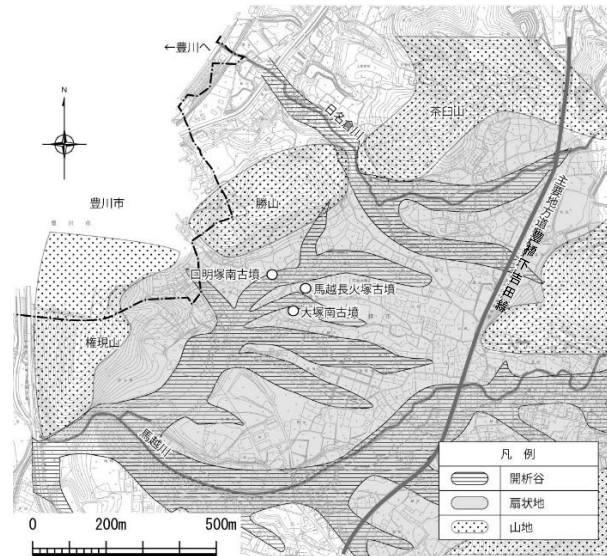


図 3-1 馬越地区の地形分類図

本地区には馬越川と日名倉川という2つの河川が東から西へ流れており、深い渓谷状の狭あい部を通り豊川の沖積平野へと流れ下っています。狭あい部では土砂の排出が滞るため、本地区は結果的に盆地状の地形になっています。また扇状地には河川によって東から西に向かって延びる深い開析谷が複数形成され、それに挟まれた舌状の地形がいくつも形成されています。一方、集落は河川の浸食を大きく受けていない北側や東側の山麓部を中心に展開しています。

(2) 人口

令和7年4月1日現在、本市の人口は364,737人、世帯数は154,071世帯となっています。このうち馬越地区を含む石巻地域の人口は11,010人で市全体の約3%、玉川校区の人口は5,084人で市全体の約1.4%、石巻本町の人口は3,217人で市全体の約0.9%です。石巻地域全体に言えることですが、人口は近年減少傾向となっており、一方で高齢化率が高くなって石巻本町では高齢化率は約35%となっています。

(3) 交通

馬越地区を南西から北東に貫くかたちで主要地方道豊橋下吉田線（県道）が存在します。これを南下すると和田辻交差点を経て豊橋市街地へ、北上すると豊橋市北部の西郷地区を経由して新城市へと続くほか、市境付近に設けられるスマートICの豊橋市側出入口が接続します。また、本地区の西側にある市道石巻本町1号線は、豊橋下吉田線から分か

れて豊川市三上町へと延びています。このほか、豊橋下吉田線から東に延びる市道石巻本町 119 号線は、石巻本町宮前・本郷などの主要な集落と県道をつなぎ、市道石巻本町 5 号線は、県道から馬越長火塚古墳群の指定地を通り、豊川市三上町へと続く道路です。

本地区の公共交通機関として、路線バスである豊鉄バス「豊橋和田辻線」の「馬越」バス停がありますが、停車本数は 1 日 5 本（2～3 時間に 1 本）と少ないです。停車数が多い「和田辻」バス停までは徒歩 30 分ほどかかるため、本地区住民の移動や地区外からの来訪手段はおもに自家用車です。

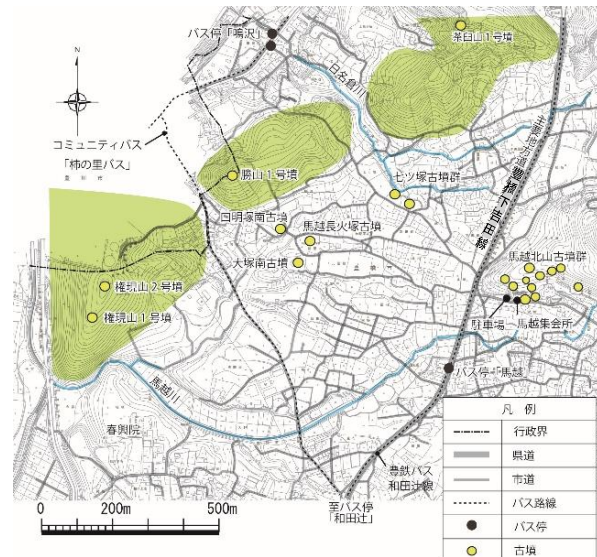


図 3-2 馬越地区の道路交通網図

(4) 産業

馬越地区の主要な産業は、石巻地域全体と同じ農業です。次郎柿を中心に果樹の生産が盛んで、本地区の主要地方道豊橋下吉田線から西側一帯は農用地区域（色地）が広がっています。一方で、近年は農業従事者が減少しており、本地区内には耕作放棄地がいくつか存在します。

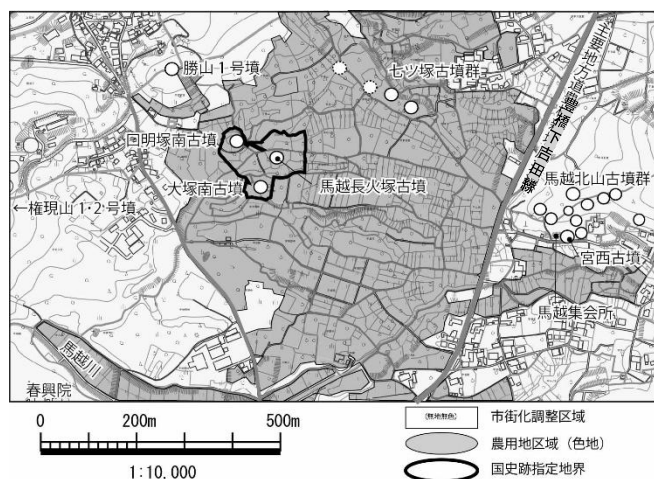


図 3-3 馬越地区の法適用現況図

(5) 地域資源

① 歴史文化資源

No..	名称 関連する指定文化財	内容
①	馬越長火塚古墳 国：馬越長火塚古墳群 国：愛知県馬越長火塚古墳 出土品	全長 70m の前方後円墳で、6 世紀末葉に築造された。墳丘の規模は市内最大で、築造された当時では東海地方最大を誇る。後円部には全長 17.5m の横穴式石室があり、県内最大である。墳丘は 2 段築成で、後円部の中心は著しく高くなり、前方部の上段は細長い形状である。また、墳丘は葺石で覆われている。こうした墳丘の特徴から、「見瀬丸山型前方後円墳」とされ、同古墳の被葬者に推定される欽明天皇とつながりを持った人物の墓と推定されている。 発掘調査で、横穴式石室から金銅装馬具や玉類、鉄製武器などが出土し、石室の前からは墓前祭祀に使われた須恵器が 100 点以上出土した。金銅装馬具に含まれる棘葉形杏林は、

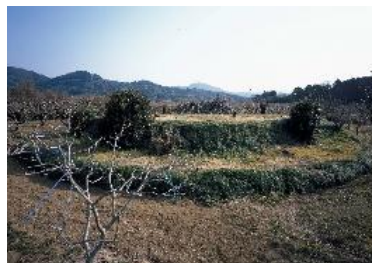
		当時各地方の最高位にあった有力者にヤマト政権から配布されたものである。 その優れた性質から、被葬者は穂国造と推定されている。出土品は「愛知県馬越長火塚古墳出土品」として国の重要文化財に、古墳は「馬越長火塚古墳群」として国の史跡にそれぞれ指定されている。
②	大塚南古墳 国：馬越長火塚古墳群	直径 19m の円墳で、7 世紀初頭に築造された。墳丘は 2 段築成だが、畑に造成され頂部が平坦に削平されるなど、改変が著しい。また主体部は全長 10m を超える大型の横穴式石室であったが、石材を採取するために著しく破壊されていた。石室の前から掻き出されて金銅装馬具が出土しており、花形鏡板などが含まれている。馬越長火塚古墳に続く有力者の墓であり、「馬越長火塚古墳群」として国の史跡に指定されている。
③	口明塚南古墳 国：馬越長火塚古墳群	直径 23m の円墳で、7 世紀前葉に築造された。墳丘は畑に造成され頂部が平坦に削平されるなど、改変が著しい。主体部は全長 10m を超える大型の横穴式石室であったが、やはり著しく破壊されていた。石室の前から全国的に希少な金銅装毛彫馬具が出土しており、同馬具の出土は県内では石巻平野町の上向嶋 2 号墳に次いで 2 例目である。大塚南古墳に続く有力者の墓であり、「馬越長火塚古墳群」として国の史跡に指定されている。
④	権現山 1 号墳 県：権現山古墳	全長 38.4m の前方後円墳で、4 世紀中葉に築造された。墳丘の残存状態は良好で、表面には円礫と角礫を使い分けた葺石が存在するほか、底部を穿孔された二重口縁壺が立て並べられていた。後円部にある主体部は縦穴式石室で、蓋石には石灰岩を使用していた。当時としては近畿地方の最新の古墳の特徴を備えており、小規模だが重要な古墳である。「権現山古墳」の名称で県の史跡に指定されている。
⑤	権現山 2 号墳 県：権現山古墳	全長 33m の前方後円墳で、3 世紀後葉に築造されたと推定されている。楕円形の後円部に低く短い前方部を備えており、出現期の前方後円墳の可能性がある。主体部は確認されていないが、後円部の北西裾から出土した土師器の高坏片から築造年代が推定されている。「権現山古墳」の名称で県の史跡に指定されている。
⑥	宮西古墳 市：宮西古墳	12 基からなる馬越北山古墳群西支群の最も低い場所にある古墳で、群の中では最大の規模である。楕円形を呈した長径 18m、短径 15m の円墳で、馬越長火塚古墳の後円部のように墳丘は腰高になる。全長 9.5m 以上の大型横穴式石室があり、石室の南側は道路工事で除去されている。馬越長火塚古墳と同時期の古墳で、有力な家臣クラスの人物の墓と推定される。古くから開口していたため、出土品は多くない。市の史跡に指定されている。
⑦	勝山 1 号墳	全長 44m の前方後方墳で、3 世紀中葉に築造されたと推定される。勝山山頂の標高 54m にあり、豊橋市と豊川市の市境にある。墳丘は、北側の豊橋平野側から大きく見えるように築かれている。東三河地方では最古級の古墳のひとつである。発掘調査は行われていない。
⑧	ちやうすやま 茶臼山 1 号墳	全長 54m の前方後方墳で、4 世紀に築造されたと推定される。茶臼山山頂の標高 77m にあり、自然地形を利用しながら墳丘を築いたため、前方部は長大な形をしている。
⑨	茶臼山古墳群	茶臼山の尾根上にあり、前方後方墳の 1 号墳を除き 1 基の古墳（2 号墳）がある。
⑩	勝山古墳群	勝山の尾根上にあり、前方後方墳の 1 号墳を除く 3 基の円墳からなる。

⑪	馬越北山古墳群	21基からなる6～7世紀の群集墳で、西支群12基と中支群4基、東支群5基に分かれている。西支群は丘陵の南斜面にあり、2～4基の古墳が横並びに築かれて単位群を構成する。丘陵の麓に宮西古墳があるほか、頂部にある3号墳は計18mの円墳で、確認調査の結果横穴式石室は著しく破壊されていたが、複数体分の人骨が良好な状態で出土した。
⑫	^{ほしがり} 星苅古墳群	円墳が2基あったと伝わる。
⑬	七ツ塚古墳群	もとは名前のおり7基の古墳があったと考えられ、そのうち3基が現存している。横穴式石室の奥壁らしい大型の石材が見られるものがあり、いずれも古墳時代後期の群集墳であろう。馬越長火塚古墳群と同じ扇状地上にあることから、穂国造に直接従属した集団の墓と考えられる。
⑭	馬越南山古墳群	馬越北山古墳群の対面にある丘陵の北側斜面や尾根上にある、9基からなる群集墳。
⑮	向イ古墳群	丘陵の西側斜面にある3基からなる古墳群。
⑯	和田古墳群	3基の円墳で構成される古墳群で、やや離れて存在する2号墳は直径24mを測る大型の円墳である。
⑰	山崎遺跡	古墳時代の集落址。確認調査で竪穴建物跡や土坑、古墳の周溝の可能性のある遺構が見つかった。
⑱	元屋敷東遺跡	古代(8～9世紀)の集落址。確認調査で竪穴建物跡などが見つかった。
⑲	元屋敷西遺跡	古代(8～9世紀)と近世の集落址。確認調査で竪穴建物跡などが見つかった。
⑳	馬越遺跡	縄文時代の小規模な遺物散布地で、石鏃が採集されている。
㉑	口明塚遺跡	古代から近世の遺物散布地で、口明塚南古墳と重複している。
㉒	別所遺跡	権現山の西山腹から山麓に広がる、古墳時代から古代の遺物散布地で、確認調査により小規模な平場群が確認され、多数の遺物が出土した。
㉓	^{きたいりだ} 北入田遺跡	権現山の東山腹から山麓に広がる古代の遺物散布地で、確認調査により小規模な平場群が少数確認された。
㉔	^{はざまだ} 挟間田遺跡	縄文時代と古代の遺物散布地で、確認調査により縄文時代中期の土器や石器の剥片が出土している。
㉕	南野中遺跡	古墳時代または古代の遺物散布地。
㉖	中ヶ田遺跡	古墳時代から近世の遺物散布地で、円墳3基があったと言われている。確認調査で古墳の周溝と考えられる溝が見つかった。
㉗	欠ノ上遺跡	古墳時代の集落址で、確認調査により土坑内から6世紀の土師器が出土した。移動式カマドの出土が特筆される。
㉘	挟間田南遺跡	縄文時代から中世の遺物散布地。
㉙	^{なるさわ} 成沢遺跡	縄文時代晩期から近世の遺物散布地で、石鏃、石斧、石棒、叩き石、凹み石など縄文時代の石器が採集されている。
㉚	向山石切り場址	中世から近世の採石場跡。
㉛	勝山城跡	豊川市三上町にある。熊谷氏の居城跡で、現地には石碑が立つ。成沢城ともいう。大永2年(1522)に連歌師宗長がここを訪れ、熊谷氏と連歌の会を催している。豊川沖積地に臨む高台であり、現在は集落となり城の遺構はほぼ現存しない。
㉜	和田城址	城主は和田氏や渡辺氏とされる。渡辺氏の菩提寺である春興院に隣接して、堀や土塁が良好に残っている。
㉝	^{すきのお} 素盞鳴神社	かつて牛頭天王社と呼ばれた。創立時期は不詳だが、市内の天王社系で最古となる永享9年(1437)の牛頭天王宮造立棟札が伝わるほか、中世から近世にかけての複数の造立棟札が伝存している。施主として西郷氏や導師として隣接する宝蓮寺との関係を記すものがある。

③④	ほうれんじ 宝蓮寺	古来臨濟宗正宗寺の末で、創立年代は中世まで遡る。本尊は観音菩薩像である。また境内の薬師堂には宮殿に薬師如来坐像を納めており、これは馬越城主の馬越平内の念持仏と伝わる。近世には伊奈備前守から黒印2石が付与された。戦時中に仏器什器一切を供出し、昭和19年秋以降、本土決戦準備のため50人の兵員が滞在した。
③⑤	しゅんこういん 春興院	曹洞宗の豊川妙巖寺（豊川稲荷）末で、永禄9年（1566）に和田城主渡辺図書助清の創立とされる。はじめは字広福に建てられて広福山常林寺と称したが、後に和田城址に移った。近世には朱印5石を領し、複数の末寺を持った。宝暦8年（1758）の「渡辺家家譜」1巻があるほか、渡辺家三代の五輪塔が境内の廟所に納められている。なお、戦時中の昭和20年には150人の兵員が滞在した。
③⑥	権現山砲台	戦時中に、豊川海軍工廠の守備を目的に設けられた砲台で、造成中に終戦を迎えたため未完成となった。砲台跡1基（もとは2基）、兵舎予定地、監視所予定地、事務所予定地のそれぞれ跡があり、通路で結ばれている。戦争遺跡として残存状態は良好で、同じく海軍工廠守備のため設けられた豊川市御津山砲台や豊橋市向山砲台が現状では見学できないこともあり、貴重な存在となっている。
③⑦	権現山	名称から宗教的な用途が推定される丘陵で、権現山古墳群や権現山砲台などが存在する。確認調査で西東の山腹にそれぞれ山寺の坊跡に類似した小規模な平場群が確認されたほか、権現山1号墳の墳丘では無数の火を焚いた跡が確認され、山茶碗類が多数出土している。



①馬越長火塚古墳



②大塚南古墳



③口明塚南古墳



④権現山1号墳



⑤権現山2号墳



⑥宮西古墳



⑦勝山1号墳



⑩馬越北山古墳群(3号墳)



⑬七ツ塚古墳群



⑩和田古墳群(2号墳)



⑪成沢遺跡



⑫勝山城跡



⑬和田城址



⑭素盞鳴神社



⑮宝蓮寺



⑯春興院



⑰権現山砲台



⑱権現山

②農業・自然資源

N0.	名称	内容
⑳	次郎柿	第1章参照。
㉑	次郎柿を中心とする農景観	第1章参照。
④①	古い地割	馬越地区では農地整備を行っていないため、古い地割が残されている。「土地宝典」に示された地割と同じ形状が残っていることから、近世から近代の早い時期に行われた造成の地割を留めるものである。現代の直線的な農地整備とは異なる自然に則した農地の姿を残しており、本市では貴重な農景観となっている。一方で、効率的な農作業を妨げている側面があり、農地の健全性を保つ上では現状の見直しも考慮する必要がある。 なお、現在同様の地割は市内では岩崎町や石巻平野町の奥部で認められるのみである。
④②	谷田の稲作景観	馬越地区では数少ないが谷田があり、水が張られた田植えの前後や収穫の時期には、柿畑とあいまって美しい農景観を見せる。
④③	水神池	馬越川の水源。美しい湧水をたたえ、釣りをすると崇られる言い伝えがあり、独特の雰囲気を持つため池。
④④	馬越大池	馬越川の水源。農業用のため池。江戸時代に築かれたと考えられるが詳細は不明である。
④⑤	採石場	周辺の採石場には独特の景観が広がっている。
④⑥	高所からの眺め	勝山や茶白山の山頂、権現山の山腹からは、広く良好な農景観や山地の山並みを望むことができる。



㉔ 次郎柿



㉕ 古い地割



㉖ 谷田の稲作景観



㉗ 水神池



㉘ 馬越大池



㉙ 高所からの眺め

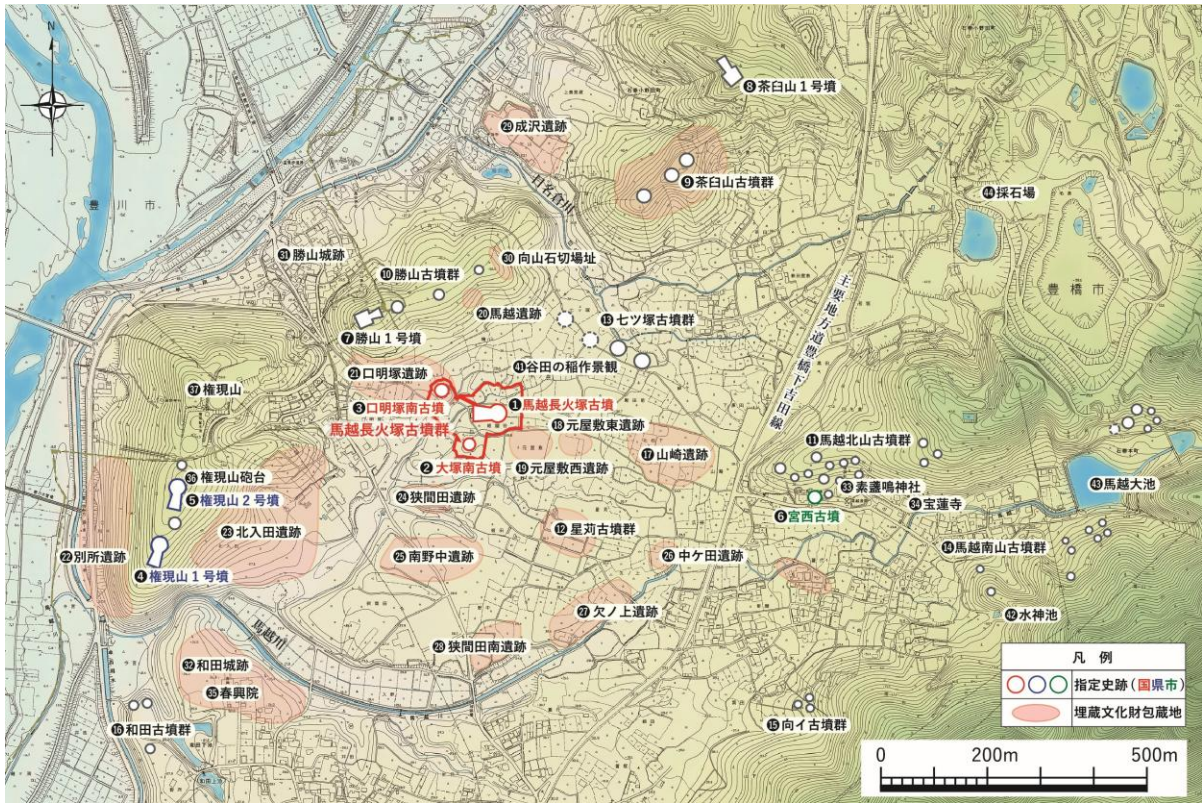


図 3-4 馬越地区の地域資源位置図

4. 地域資源に関する地域住民等の意向

（『豊橋新城スマート IC（仮称）周辺土地利用構想』令和6年3月より）

（1）地域住民の意向（地元検討組織による意見交換）

- ・地域の強み：「自然が豊かな農業産地」「伝統のあるまち」
- ・地域が考える「あったらいいもの」：第3位に「史跡（古墳）公園」
- ・地域が考えるまちづくりの方向性：魅力ある地域資源の活用

（2）市民の意向（市民対象ワークショップ）

- ・地域の強み：「自然豊かな景色」「地域資源としての農業」「歴史的な資産が豊富」
- ・市民が考えるまちづくりの方向性：自然や歴史的な資源を活用した取組み

地域住民と市民の意向の共通点：農業や古墳などの地域資源を活用する



玉川小学校の模擬古墳づくり（令和2年）

5. 馬越地区の現状と課題の整理

歴史まちづくりに向け、基本的な方向性とその取組みを示すため、馬越地区の地域資源について現状と課題を下記のように整理しました。

① 史跡馬越長火塚古墳群

整備事業が進捗していない

史跡周辺の土地利用の方針が無い

古墳群の価値が周知されていない

出土品の価値が周知されていない

古墳の形状が畑により改変されている

横穴式石室の劣化が進んでいる

樹木が墳丘に影響を与えている

大雨の後の石室内の溜水

周辺の歴史文化資源との関係が活かされていない

説明のための看板が少ない

古墳の周辺に見学のための便益施設が無い

古墳群に至る進入路が狭い

周辺古墳群の性質が明らかではない

地元との関係が希薄である

特定のファン層を把握していない

日常管理が不十分

② 史跡馬越長火塚古墳群を除く歴史文化資源

存在が周知されていない（知名度の不足）

価値が周知されていない

十分な有効活用がされていない

保存・活用のための整備が進められていない

調査が十分進められているとは言えない

行政や関係団体との連携が不十分

現地に活用を支える組織・体制が無い

見学のための便益施設がない

日常管理が不十分

③ 農業資源

農業資源の価値が認知されていない

耕作放棄地の存在

外部の居住者が農業に関わる場所や機会がない

④ 自然資源

豊かな自然資源が認知されていない

自然資源に触れ合うための通路が存在しない

6. 馬越地区活性化委員会

(1) 目的

豊橋新城スマートインターチェンジ(仮称)の整備を契機として、馬越地区の活性化を目指した「まちづくり」を実現するため、石巻本町馬越自治会内に、馬越地区活性化委員会(以下「活性化委員会」という。)を設置する。

(2) 所掌事項

活性化委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- ・馬越地区の「まちづくり」の方針に関すること。
- ・馬越地区の「まちづくり」に向けた地域の調整に関すること。
- ・馬越地区の「まちづくり」における関係機関との意見交換に関すること。
- ・その他、馬越地区の「まちづくり」全般に関すること。

(3) 組織

●委員構成

代 表 渡辺 儀高

副代表 渡邊 正高

ほか、委員 17 名

●オブザーバー

豊橋市教育委員会 教育部美術博物館(文化財センター)

(4) 委員会開催回数とおもな審議内容

令和5年度 11回

「豊橋新城スマートIC(仮称)周辺土地利用構想の検討」

このほか、令和6年1月21日 歴史の里しだみ古墳群(名古屋市)・道の駅瀬戸しなの(瀬戸市)視察

令和6年度 11回 (準備会を含む)

「馬越地区の歴史まちづくりに向けた提言書の作成」

令和7年度 12回

「馬越地区の歴史まちづくりに向けた提言書の作成」